
平成30(2018)年度 病害虫発生予報 第3号

平成30(2018)年6月15日
栃木県農業環境指導センター

○なしの黒星病とナシヒメシンクイの発生動向に注意しましょう。 ○いちごのうどんこ病、ハダニ類の防除は育苗期が重要です。

予想期間 6月下旬～7月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 縞葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
 - (2) 根拠
 - ・ 5月中下旬の大まほ場におけるヒメトビウンカの生息密度はやや少。(－)
 - ・ 第1世代幼虫のウイルス保毒虫率は県中部10.2%、県南部6.3%と高い。(＋)
 - (3) 対策
 - ・ 発生が多い地域では、地域ぐるみで本田期防除を実施する。
 - (4) 備考
 - ・ [植物防疫ニュースNo.3](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。
-

2 いちご(育苗ほ) 炭疽病

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
 - (2) 根拠
 - ・ 現在の発生量は少ない(平年比0%：ほ場率)。(－)
 - ・ 向こう1か月の気温は平年並から高く、日照時間は平年並または多く、降水量は平年並または少ない見込み。(±～－)
 - (3) 対策
 - ・ 水滴の飛散等で伝染するので、頭上かん水は避け、かん水チューブを用いるなどできるだけ水の跳ね返りのないかん水方法を行う。
 - ・ 発病してからの防除は困難なので、予防を主にベルコートフロアブル等を散布する。また、発病株は見つけ次第取り除き、ほ場外で処分し、速やかに治療効果のあるサンリット水和剤等を散布する。
 - (4) 備考
 - ・ [病害虫防除対策のポイント\(イチゴ炭疽病\)](#)、[薬剤感受性検定結果\(QoI剤\)](#)を当センターHPに掲載中。
-

3 いちご(育苗ほ) うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
 - (2) 根拠
 - ・ 現在の発生量はやや少ない(平年比36.0%：ほ場率)。(－)
 - ・ 向こう1か月の気温は平年並から高く、日照時間は平年並または多く、降水量は平年並または少ない見込み。(±～－)
 - (3) 対策
 - ・ 生育に応じて葉かきを実施し、株間の風通しを良くする。
 - ・ 軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
 - ・ 予防を主体にベルコートフロアブル等を散布する。
 - (4) 備考
 - ・ 高温時には菌の活動が抑えられ病徴が見えにくくなるが、菌は残存しているため、注意する。
-

4 いちご(育苗ほ) ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
 - (2) 根拠
 - ・ 現在の発生量は平年並(平年比74.3%：ほ場率、50.4%：株率)。(±)
 - ・ 向こう1か月の気温は平年並から高く、日照時間は平年並または多い。(＋)
 - (3) 対策
 - ・ 雑草はハダニ類の発生源となるため、除草を徹底する。
 - ・ 気門封鎖剤等を活用し、有効薬剤を温存する。
 - ・ 気門封鎖剤は卵に効果が低いため、5日程度の間隔をおき、複数回散布する。また、殺卵効果のある薬剤と組み合わせてもよい。
 - (4) 備考
 - ・ カブリダニ類を放飼している場合は、一部の殺虫・殺菌剤は天敵に悪影響があるため注意する。
 - ・ [薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。
-

5 野菜類・花き類 アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 6月第2半旬までの青色粘着板への誘殺数は平年並。(±)
 ・ きくにおける現在の発生量は平年並(平年比106.7%:株率)。(±)
 ・ 向こう1か月の気温は平年並から高く、降水量は平年並または少ない見込み(±~+)
- (3) 対 策 ・ 雑草はアザミウマ類の増殖源になるので、ほ場内外を除草する。
 ・ 施設栽培では、開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。
 ・ 発生初期から、マッチ乳剤<適用作物:トマト、きく [ミソキイロアザミウマ]>やモベントフロアブル<適用作物:トマト、なす、きゅうり>等を散布する。
- (4) 備 考 ・ アザミウマ類はウイルス病を媒介するので注意する。
 ・ モベントフロアブルは、マルハナバチや天敵への影響があるので注意する。
 ・ [薬剤感受性検定結果\(続報\)](#)を当センターHPに掲載中。

6 なし 黒星病

- (1) 発生予想 発生量： **少ない**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は少ない(平年比9.0%:ほ場率、平年比0.0%:株率)。(一)
 ・ 向こう1か月の気温は平年並から高く、日照時間は平年並または多く、降水量は平年並または少ない見込み。(±~-)
- (3) 対 策 ・ 発病した葉や果実は2次伝染源となるため、摘み取ってほ場外で処分する。
 ・ 発生が多く見られるほ場では、ナリアWDG、フルーツセイバー等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [簡易薬剤感受性検定](#)を当センターHPに掲載中。

7 その他の病害虫

		現 況	発生予想			現 況	発生予想
水稲	いもち病	—	やや少	野菜類	ハスモンヨトウ	平年並	やや多
トマト	アブラムシ類	やや多	やや多	なし	ナシヒメシンクイ	多	多
	コナジラミ類	やや少	平年並	ぶどう	べと病	少	少
なす	ハダニ類	やや多	やや多	きく	ハダニ類	平年並	やや多
	アブラムシ類	やや多	やや多				

○ほ場の雑草対策は害虫防除の基本です！

周辺の雑草だけではなく水田内の雑草(ノビエ、イヌホタルイ等)も、斑点米カメムシ類の誘引・発生源となります。また、野菜類や花き類でも、ほ場内外の雑草はハダニ類やアザミウマ類、アブラムシ類の温床となります。適切な雑草対策で害虫類の生息しにくい環境を作りましょう。

1か月気象予報(予報期間6月16日から7月15日 6月14日気象庁発表)

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。向こう1か月平均気温は平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または高い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、低い確率ともに50%、2週目は、平年並または高い確率ともに40%、3~4週目は高い確率50%です。

	低い(少ない)確率	平年並の確率	高い(多い)確率
○気温	20%	40%	40%
○降水量	40%	40%	20%
○日照時間	20%	40%	40%

NEWS & INFORMATION

- 「栃木県農薬管理指導士」養成研修(7月18・19日)、更新研修(7月18日)が開催されます。詳しくは農政部経営技術課環境保全型農業担当までお問合せください。(TEL 028-623-2286)
- 県では、農薬による事故等の発生防止を図るため、6月から8月の3か月間を「農薬危害防止運動期間」とし、農薬の適正使用等について啓発活動を行います。

詳しくは農業環境指導センター(TEL 028-626-3086)までお問合せください。
 病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ(<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>)でもご覧になれます。